



毛布製造開業ノ法策



114
A3956
1



フランシスコ 年八百七十三年三月十六日

日本横濱エイチ、エム、ミルラル君

大正十一年四月

今日本國へ毛布製造ヲ関カンイハ莫大ノ緊要
事件ニシテ此製造ヲ関クカ為メニ後來日本ニ
生スベキ利益ハ今是ヲ測リ知ルベカラザルナ
リ

此事業ヲシテ初メヨリ利益アラシメン為メニ
ハ大ヒナル注意擔任、勉強及ヒ學識ヲ要スベシ
而シテ只ニ製造ノ方法并ニ製造ニ属セル諸件ヲ

飛翠哉

大藏省

知リタルノミナラス且又製造所ノ建築方ヲ計
畫シ且ツ是ヲ建築シ最少費ニテ素質ヲ買入レ
製造セント欲スル產物ニ適當シタル機械ヲ選
擇シ且ツ是ヲ組立テ諸種ノ課業ニ從事スベキ
適當ノ執事工人及ヒ精工ナル人夫ヲ雇ヒ入レ
以テ此全業ヲ能ク興行セントヲ要スルナリ右
ハ莫大ナル擔任及ヒ勤務ヲ要スベキ一大事業
ナリトスサレドモ是ヲ興行シ能フ可シ而シテ
若シ日本政府及ヒ人民ヨリ助力ヲ得ルニ於テ
ハ余ハ余ノ勤勞ニ報ユベキ如キ約定ヲ設ケ以

テ此事業ヲ興サンコトヲ欲ス然レドモ此ノ如キ
事業ヲ興サンニハ先ツ其以前若干ノ條款ヲ取
設ケンコト緊要ナルベシ而シテ余ハ此條款ヲ數
部ニ分チ以テ左ニ掲ケタリ則テ

第一 特許ノ事

日本政府ハ無償ニテ地所及ヒ建物ノ素質ヲ給
スベキ事(若シ此事ノ行ハルノトキハ)又政府ハ
十年乃至十五年ノ年限ヲ定メ其間毛布製造ノ
特許ヲ與フベキ事、身体并ニ所有物ヲ保護セン
ヲ約スベキ事、租稅ヲ免除シ及ヒ其他軍務或ハ

番言抄
公務ニ從事セシメザル事、毛布製造ニ用ユル素
質并ニ製造事業ニ属セル物料及ヒ機械建物等
ニ用ユベキ物料ノ海關稅ヲ免除スベキ事等ヲ
要ス尤モ日本政府ハ十年乃至十五年ノ後ニ至
リ相當ノ價ヲ以テ斯ク取設ケタル製造所ノ所
有物ヲ買取リ且ツ製造ノ全事業ヲ管理スルノ
權ヲ有ス可シ

第二 工人ノ事

當今日本ニ如何ナル種類ノ工職アリヤ成丁一
人ノ手間料幾何ナルヤ成丁ノ如ク婦女并ニ童

子モ亦タ力役スルヤ工人ハ其性教ヘ易ク敏捷
ニシテ且柔順ナルヤ石工匠機械師等ノ如キ工
人ハ如何ナル才能ヲ備ヘタルヤ日本人ハ職業
ヲ學ヒ得ベキ質ヲ備ヘタルヤ日本人ハ製造
事業ニ関係セル機械術ヲ傳習スルニ熟練セル
外國人ノ教授ヲ受ケ容易ニ業ヲ學ヒ得ベキヤ
此事業ヲ興サンニ相當ナル大サノ製造所ヲ設
ケ其事業ヲ取リ行ハンタメ凡ソ千人ノ成丁及
ヒ童子ヲ多分要スベシ然ルニ此人々業ニ就キ
テヨリ五ヶ年ヲ経ニ後ケ十分事業ニ練達シ給

料ヲ得與フベキ品格ヲ備フルニ至ル迄テ右五
ケ年ノ間タハ政府ノ入費ヲ以テ此人々ヲ雇ヒ
入レシメテ得ベキヤ

第三 資本金ノ事

五十箇ノ梳毛器ヲ備ヘタル一個ノ製造所ヲ取
建テシニハ少ナクトモ金貨ニテ一百万弗ヲ要
スベシ然ルニ此金額ノ内幾何ノ部分ヲ政府ヨ
リ給サルベキヤ少ナクトモ政府ハ其ノ半額ノ
金ヲ給サレシメテ欲ス尤モ此金ニハ利分ヲ拂
ヒ而シテ十年乃至十五年ノ後チハ其本金ヲ返

還ス可シ且又政府ハ其軍隊ノ衣服ニ用ユベキ
物品ノ上等品ヲ相當ノ價值ニテ買入レ同一ノ
製法且ツ品格ノ物品ヲ得與フベシ

雜種ノ進言及ヒ查問

機械運轉ニ為

重立タル諸港ヨリ遠カラザル地ニ於テ動機力
ニ用ユベキ水アリヤ(直下ノ瀑布或ハ漸下ノ瀑
布ニテモ之レ在ル河流ヲ云フナリ)
蒸氣ヲ沸スニ用ユベキ石炭ヲ日本ニ於テ得ベ
キヤ若シ之レヲ得與フトキハ何レノ地ニ於テ
之レヲ得且ツ如何ナル價值ニテ製造所迄テ來

ルベキヤ石煉化石木材等ノ如キ建築ニ用ユベキ物料アリヤ

此クノ如キ事業ヲ興サンコトニ決定シ而シテ又予ト約定ヲ做スコトニ為リタル上ハ余ハ即今余ガ管理スル所ノミツシヨシ、ミル製造所ノ持主ニ説キ以テ其全事業ヲサシテフランシスコヨリ日本ニ移サシモノトシテ計ルベシ而シテ是レニ依リ機械ヲ容ル、ニ必要ナル建物成工次第直チニ事業ヲ起シ以テ貴重ノ時間ヲ多ク費スベキトカラシムベシ之レヲ基礎トナシテ此ヨリ事

業ヲ追々推擴シ能フベシ而シテ右必需ノ建物及ヒ機械ノ備ハルニ隨テ速ニ日本工人ニ一層盛大ノ事業ヲ教ユルコトヲ得ベシ且ツ現今余ガ使用スル所ノ熟達セル工人ヲ直チニ日本ニ送り之レヲシテ速ニ機械及ヒ料物ヲ整頓セシメ但シ建物既ニ成工ノ上ニテ成ル可キ丈ヲ速ニ製造開業ヲ拂ラス可シ

若シ上ニ陳フル所ノ諸件採用アル時ハ余ハ十年乃至十五年ノ約定期限中ハ日本國ニ於テ斯クノ如キ製造所一ヶ所成ハ敷ケ所ヲ取建ツベ

キ特許或ハ權理ヲ獨リ予ニ與ヘ他人ヲシテ之
ヲ為スイヲ得サラシメニイヲ余ハ日本政府ニ
乞ハントスルナリ

扱テ予ガ右ノ特許ヲ乞ハントスル所以ハ若シ
他ニ人アリ同事業ヲ興サン為メ一層都合好キ
約定ヲ為スコトヲ得ルトキハ予ハ必然夫レガ
為メニ損失ヲ受クベケレバ此損失ヲ預防シ且
之レヲ償ハンガ為メナリトス蓋シ他人(余ガ異
國ニ於テ斯クノ如キ大事業ヲ起シ之ニ由テ自
然生スベキ所ノ危險繁雜勤勞ヲ凌キ遂ニ事ヲ

達シタルイヲ見バ余ガ経練ト方策トニ基ツキ
而シテ予ノ冒カセシ危險ヲ冒カサズ余ノ為シ
タル入費ヲ為サズシテ日本政府ヨリ予ノ免許
ト同様或ハ又一層都合好キ免許ヲ得^ル欲スベ
キナリ而シテ若シ其免許ヲ得バ余ガ創始ノ作
業ノ成功ヲ損害スルハ必然ナルナリ之ニ加フ
ルニ余ガ此事業ニ費ヤスベキ巨額ノ資本等ヲ
十分保護セン為メ亦予ハ此權ヲ得サル可カラ
ザルナリ而シテ余ハ該國ノ所要及ヒ一般商務
上其適宜ヲ視テ勉テ成ルベキ丈ケ十分ニ右事

業ヲ弘張ニ及ヒ其弘張ニ準シ缺ク可カラザル
資本ヲ得テ以テ此特権ニ報ヒント欲ス

見積書

澳大利亞ヨリ大不列顛ニ輸入シ同處ニテ毛布
 ニ製造シ而シテ賣却ノタメ日本ニ輸出セル綿
 毛ノ原價并ニ布綿毛上ニ用ヒタル勤業ノ各種
 ノ手續ニ因テ生セラレタル價値ノ増加ヲ示セ
 ル覺書

○買入手續

倫敦ニテ買入レタル澳大利亞産綿毛十萬斤

但シ一斤ニ付キ一シルリゲ四ペンズノ積リ

六六六ポンド十三シルリゲ三ペンズ

綿毛牙保拂フベキ牙錢

不定

倫敦ヨリ製造所迄ヲ運賃ノ積リ

三三ポンド六シルリゲ七ペンズ

此金高

六六九ポンド十九シリング十ペンス

○製造手續

染料、油、石鹼

但シ一割ニ付キ〇〇〇七
二六三ポンドノ積リ

七二六ポンド六シリング

製造賃銀

但シ一割ニ付キ〇〇三四
四八五ポンドノ積リ

三四八五ポンド六シリング

製造所地稅、全上修繕機械ノ破損、石炭

及ヒ資本金利息

但シ一割二分ノ積リ

八零四ポンド

製造者ノ利潤

但シ二割ノ積リ

一三三九ポンド

此金高

六三五四ポンド十二シリング

○日本ニ送テ運漕ノ手續

製造所ヨリ倫敦迄テ運送入費

但シ零分二分ノ積リ

六五ポンド五シリング六ペンス

倫敦ニ於テ買入用達ニ拂フベキ手数料

但シ三分ノ積リ

三九一ポンド十二シリング五ペンス

包料箱車賃裝船所稅銀等

但シ一分ノ積リ

一三〇ポンド十一シリング

貨物牙保拂フベキ牙錢

不定

帆走船ニテ日本迄テ送ル船賃

但シ一分四分ノ積リ

一六三ポンド三シリング五ペンス

保險料

但シ三分ノ積リ

三九一ポンド十二シリング五ペンス

此金高

一一四二ポンド四シリング九ペンス

右三口總計

一四一九ポンド十六シリング七ペンス

此金圓ニ直シ六八三圓七十二錢

但シ一圓ニ付キ四シリング六ペンス半ノ積リ

○賣拂手續

横濱海関税 但シ五分ノ積リ

三四一圓六十錢

陸揚入費 但シ零分八分ノ積リ

八六圓四錢

賣拂迄テ倉敷及ヒ保険料

六八八圓三二錢

但シ一分ノ積リ

一七二〇圓八〇錢

六ヶ月間ノ利息損失 但シ五分ノ積リ二分二分ニ均シ

三七三八圓八〇錢

此金高

九六七五圓二錢

横濱ヨリ東京迄テ運送賃 但シ零分二分ノ積リ

三九圓二五錢

東京在ル日本商人ノ買入直段

七八五四七圓七錢

澳太利亞ヨリ日本ニ輸入シ同所ニテ毛布ニ製
 造シ而シテ東京ニ於テ賣却ス可キ綿毛ノ原價
 及ヒ右綿毛ノ上ニ用ヒタル各種ノ勤業ノ手續
 ニ因テ生セラレタル價値ノ増加ヲ示メセル覺
 書

○買入手續

横濱ニ於テ買入レタル澳太利亞産綿毛十萬斤

但シ一斤ニ付キ零三三三圓ノ積リ則チ四シル
 リング一ベンチ一半ヲ一圓ト定ムレバ一斤ニ付キ一
 ルリシク四ベンスノ積リ

三萬二千三百二十三圓三拾二錢

横濱ヨリ東京迄テ運送賃但シ十分一ノ積リ

三拾二圓三拾二錢

税銀 但五分ノ積リ

此金高 三萬二千三百五拾五圓六拾錢

一千六百十七圓八拾錢

右總計 三萬三千九百七拾三圓四拾錢

侯余ハ爰ニ綿毛ノ價ヲ英國ニ於テノ價ト同
シモノトシテ定メタリサレトモ恐クハ甚々
僅カノ差異アル可シ

呂余ハ運送賃ヲ他ノ場合ニ於テノ如ク五毛
ノ代リニ一厘ト記シタリ右ハ總價ノ上ニハ
五毛ナリ

波税銀減省スル一兀二分五厘ナリ是レ抵未

製造サレザル物料ノ上ニテ之ヲ拂ヘハナリ

染料油及ヒ石鹼 但一付ニ付キ零零
零九五ホ下ノ積リ 四千六百零六圓

製造賃銀 但一付ニ付キ零零一六ホ下 七千七百五拾七圓

製造所地税修繕器機破損石炭及ヒ

資本金ノ利息 但ニ割ノ積リ 六千七百九十四圓

製造者ノ利潤 但ニ割五分ノ積リ 八千四百九十二圓

一個月間ノ倉敷及ヒ保險料 但一分ノ積リ 三百三拾九圓

此金高 二萬七千九百八拾八圓

右諸口合計 六萬二千九百六十二圓四拾錢

横濱陸揚入費 是レ前行遺漏シタルヲ
茲ニ附加ス但五分一積リ

四拾圓

右總計

六萬二千零零一圓四錢

英國製造毛布付キテ別紙概算惣計

七萬八千五百四十七圓零七錢

日本ニ保存スル概算金高

一萬六千五百四十五圓六十三錢

伊、漆料、油、及ヒ石鹼等ノ品々ハ恐クハ輸入ナ
ル、ヲ得サレハ余ハ右諸品ヲ別紙英國ノ
記載ニ比スレハ増加シタル價值ヲ以テ定メ
タリ

呂、英國ニ於テ綿毛工人ノ賃錢ハ每一個月九
ソ十六圓ニ當レリ日本ノ工人ハ凡ソ七圓ニ
テ備フヲ得ベシサレハ茲ニ甚ク減省アリト

ス

波、製造所ノ地稅ハ日本ニ於テハ英國ニ比ス
レハ低價ナリ石炭モ亦同ク低價ナリ修繕及
ヒ器械ノ破損ニ付キテノ入費ハ英國ニ同シ
資本金ノ利息ハ英國ヨリ更ニ高シトス爰ニ
余ハ其レヲ十分ニ見積ル爲メ一割二分ニ代
ヘテ二割ト定メタリ

仁、余ハ又製造者ノ利潤ニ五分ノ増加ヲナシ
タリ

保、凡テ製造者ハ通例訛ヘニ依テ毛布ヲ製

造シ而シテ其出来上り次第直クニ引渡スモ
ノトハ此入費ヲ要スルコト稀レナリトス

英國及ヒ日本ノ各地ニ於テ毛布ノ製造ニ付テ
要スル物件及ヒ日本ニテ直チニ製造スルコト
ニ依テ其得失ヲ為ス所ノ廉々ヲ示セル比較表
左ノ如シ

英國ニ於テノ製造	物件	日本ニ於テノ製造
第一 生綿毛ノ原價		恐クハ最初ノ内ハ英國 ト等シクサレド後ハ低價 ニ至ルベシ
第二 綿毛ヲ保シ拂ベキ牙錢		無シ
第三 海港ヨリ製造所迄ノ		距離ニ随テ差異アリ

運賃	サレド東京迄運賃ハ更ニ 低價ナルベシ
第四 漆料、油、及ヒ石鹼	是等ノ品々ハ輸入ナサ ザルヲ得サレハ生綿毛 上毎百ノ割合ハ英國ニ於テ ルヨリ更ニ高カルベシ
第五 工人ノ賃錢	英國ヨリ大ニ低價ナリ
第六 製造所ノ地稅	英國ヨリ低價ナリトス
第七 同上ノ修繕	大抵英國ニ等シ
第八 器械ノ破損	
第九 石炭	
	英國ヨリ低價ナリ而シテ石 水カヲ用ヒ得ルトキハ此費 用全クアラズトス

第十 資本金ノ利息	日本ニ於テ英國ヨリ高シ
第十一 製造者ノ利潤	日本ニ於テ英國ヨリ高シ
第十二 製造所ヨリ海港迄テノ 運送火費	是等ノ入費ハ惣ベテ 減者サルベシ
第十三 買入用達ニ掛ルキ手数料	
第十四 包料箱束賃及ヒ些少火費	
第十五 牙保ニ掛ルベキ牙錢	
第十六 日本迄テノ運送船賃	
第十七 保險料	生綿毛上ニノニ掛ル モノナリ
第十八 横濱ニ於テノ稅銀	

第九 陸揚ヶ入費

英國ト大抵同シ

第十 倉敷及ヒ賣却迄テ

ノ保強料

第十一 利息ノ損失

之レ等ノ入費ハ惣ベテ
減省サルベシ

第十二 商人利潤

第十三 東京迄テノ運送

千八百五十八年ニ於テベーンニス氏ノ編輯シタル大

英國ニテ毛布製造ノ入費ヲ示セル記載左ノ如シ

綿毛七五九三六六斤

外國及英國屬地産

但シ一斤ニ付
一シリンクニシテ

價四七二七宛ニシテ

同 八〇〇〇〇〇〇斤

英國ノ産

但シ一斤ニ付
一シリンクニシテ

價五〇〇〇〇〇〇ガンド

同 三〇〇〇〇〇〇〇斤

シツデーノ産

但シ一斤ニ付
ニシリンクニシテ

ニ口合テ價六〇九三七〇ガンド

同 一五〇〇〇〇〇〇斤

モンゴノ産

但シ一斤ニ付四
シリンクニシテ

合計二〇〇九三六六六斤

合計金高一〇三六八六二ガンド

棉花及同ク經線

但シ綿毛値價
ノ五十分一

價二〇六五三七ガンド

惣計一〇五三三三九ガンド

漆料、油、石鹼

一五〇〇、〇〇〇ポンド

工人賃錢 但シ一人ニ付毎
一週月十五シリング

五八五〇、〇〇〇ポンド

製造所地税、同ク修繕

此合計價一〇、七三六、八〇ポンド

器械破損、石炭、資本金

利息

利潤

但シ二割
ノ積リ

二〇六、五〇ポンド

右諸口惣計二二、二六五、〇七九ポンド

日本ニ於テ賣却ノ為メ大英國ニテ毛布ヲ製造
スル模様及ヒ右毛布ヲ若シ日本ニテ製造スル
中ハ其要スル入費ヲ示セル比較書左ノ如シ

大英國ニテ製造スルキ左ノ如シ

日本ニ於テ左ノ如シ

第一 倫敦ニ於テ澳大利亞綿毛ノ價	第一 橫濱ニ於テ澳大利亞綿毛ノ價
第二 綿毛牙係拂スキ牙錢	第二 入費ナシ
第三 倫敦ヨリ製造所迄ノ運送入費	第三 橫濱ヨリ製造所迄ノ運送入費
第四 漆料、油、及ヒ石鹼	第四 漆料、油、及ヒ石鹼
第五 工人賃錢 <small>但シ一人ニ付 十五シリング</small>	第五 工人賃錢 <small>但シ七シリング 六ペンス</small>
第六 製造所地税、同ク修繕器械ノ破損、石炭	第六 英國比スルニ製造所地税及ヒ石炭ハ

資本金ノ利息

低價より資本金ノ利息、更ニ高ニ其他ノ商

第七 利潤 但シ三割ノ積リ

第七 上ニ同シ

第八 製造所より倫敦迄ノ運送ノ費 但シ二分ノ積リ

第八 不定

第九 買入用達拂スキ手数料 但シ三分ノ積リ

第九

第十 日本迄ノ運送船賃 但シ一分四分一ノ積リ

第十

是等惣テ減省ス

第十一 日本迄ノ保險料 但シ三分三分一ノ積リ

第十一

第十二 諸雜費 但シ零分四分三ノ積リ

第十二

第十三 橫濱於テノ税銀 但シ五分ノ積リ

第十三

生綿毛上而已ノ税銀

第十四 陸揚入費

第十四

第十五 倉敷賣却迄ノ保險料

第十五

是等皆減省ス

第十六 倫敦於テ買入レノ日ヨリ拂濟迄ノ 賣

第十六

間ダ利息ノ損失

第十七 橫濱商人ノ利潤

第十七

番
言
后

大
雅
省



文書
辨
別
印